

【天気予報】

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並みまたは少ない確率ともに40%です。

Table with 5 columns: Year, Average Temp (°C), Max Temp (°C), Min Temp (°C), Precipitation (mm). Rows include 2016, 2017, 2018, and 1981-2010 average.

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

1 麦

- (1) 穂肥: 施肥時期は、11月中・下旬播種のチクゴイズミで出穂前25~20日... (2) 排水溝の点検: 春先の降雨による根痛みは、収量や品質を大幅に低下させる原因となり... (3) 赤かび病の防除: 赤かび病は開花から約10日間が最も感染しやすく、この時期に温暖...

2 水稻(雑草の総合防除)

難防除雑草のオモダカ、コウキヤガラ等は単一除草剤の一時期処理では完全に防除することは困難で、耕種的な防除(水稻収穫後の水田の排水による乾田化や冬期耕起、畦畔の除草等)と除草剤の体系処理を組み合わせた総合的な防除を繰り返すことが大切です。

<松本>

【野菜】

1 さといも

- (1) 種芋消毒: 安定・高品質生産のために、種芋消毒を実施して下さい。ア 薬剤名: Table with columns for Agent Name, Disease Name, and Usage/Precautions. イ 消毒方法: ①種芋浸漬 (Flowchart: 収穫 -> 選別 -> 洗浄 -> 浸漬 -> 風乾), ②種芋粉衣 (Flowchart: 収穫 -> 選別 -> 洗浄 -> 風乾 -> 粉衣), ③種芋浸漬・粉衣処理のポイント. (2) 植付け準備~植付け作業: ア 畝立ては畝幅110~115cmで土入れ出来るように台形に畝を成型します。イ マルチングは、畝に適度な水分がある状態で、黒マルチを被覆します。ウ 植付けは、株間33~35cm、深さ15cm程度、植付ける深さが深すぎると萌芽が遅くなり、浅いと芋の品質が低下したり芽つぶれ症が発生します。(3) 害虫対策: ア コガネムシ類幼虫の被害が多い圃場は、必ず植付け前にダイアジノンS Lゾル(50倍、1000/10a)を散布し、速やかに土壌混和します。イ アブラムシ類対策で、植付け時にアトマイヤー1粒剤(4kg/10a)または、アクタラ粒剤5(6kg/10a)を植溝に土壌混和します。(4) 疫病対策: 圃場に放置されている親芋等残さは、速やかにロータリーで粉砕して下さい。

2 やまのいも

- (1) 種芋準備・消毒: ア 無病で優良な種芋(200~250kg/10a)を準備して下さい。イ 蔓首を切り除き、1個切片芋が50g程度になるように切断します。ウ 種子消毒は、青かび病対策のためにペルコートフロアブル(200倍、10分間浸漬)して下さい。その後、種芋1個片50g程度に切りベンレー

- ト T水和剤20と消石灰を混和し粉衣(消石灰10kg、ベンレートT500g)。(2) 植付け作業: 2条植えは、畝幅110~125cm・株間33~40cmの2条千鳥植え。1条植えは、畝幅100~110cm・株間25~30cm。(3) 害虫対策: ア コガネムシ類幼虫の被害が多い圃場は、必ず植付け前にダイアジノンS Lゾル(25倍、1000/10a)を散布し、速やかに土壌混和します。イ タネバエ対策で、植付け時にフォース粒剤を4kg/10aを植溝に土壌混和します。

<渡邊>

【果樹】

1 せん定

- (1) 温州みかん: みかんは、高品質な果実を数多く着果させるために亜主枝は水平からやや下向きに配置し、側枝や結果母枝は込み合った部分の立ち枝を基から間引いて柔軟な樹形を目指します。結果母枝が多く着花が多いと予想される樹は、せん定は早めに行い発芽までには終えるようにします。切返しや予備枝を設定し、春枝(発育枝)と着花量のバランスを整えます。昨年産の着果が多く、結果母枝が少ない樹は、せん定の実施は遅めで程度は軽く、着花確保に努めて下さい(着花確認後の軽いせん定でも可)。(2) 中晩柑類: 樹勢を保ち、樹冠内部まで日が当たるように独立樹を目指します。同年枝や競合枝の整理、亜主枝上の立ち枝・下垂枝の除去、外に伸びすぎた枝の追い込みなど、樹の骨格を整えます。また、樹勢が低下している場合は、切返し剪定で強めの新梢の発生を促します。

2 春肥

春肥は、新梢の充実、開花結実促進、幼果肥大に不可欠なため、発芽前にしっかりと施肥します。なお、有機率が高い肥料の場合は、やや早めに施用して下さい。

3 病虫害防除

マシン油乳剤の散布は、発芽前の3月中旬頃までに実施して下さい(但し、厳寒日は散布しない、冬期に2度散布しない)。散布濃度は95%製剤45倍(樹勢が弱い樹では97%製剤60倍が適当)ですが、商品により登録内容が異なるので使用時に農薬ラベル表示を必ず確認して下さい。かいよう病に弱い甘平等の品種では、せん定時に罹病した枝葉を除去し、園外へ搬出して処理します。また、発芽前までにICボルドー66D(マシン油乳剤を散布する場合は2週間以上空ける)を散布して下さい。

4 苗木・穂木の取り扱い

苗木・穂木は、正規に購入したものか、それから自家増殖したものに限り自家農園で栽培することができます。登録品種の苗木・穂木を他人に無償譲渡、または販売することは種苗法で禁止されています。

<可部>

【花き・花木】

1 シキミの定植と防除

日当たりと排水の良い圃場を選び、pH5.5~6.0の弱酸性土壌にしておきます(苦土石灰60kg/10a)。直径60cm×深さ30cm程度の穴を掘り、根を広げ根の間に土が入るように定植します。栽植密度は44~55本/a(株間120~150cm×条間150cm)です。冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場は、芽が動き出す前までに規定の希釈倍率(アタックオイル100倍)で散布して下さい。3月下旬にダイリーク粒剤を12kg/10a散布し、アブラムシの防除して下さい。また、生育が悪い圃場では、MB粒状固形を20kg/10a施肥し樹勢を回復させて下さい。

2 アネモネ・ラナンキュラスの摘花

球根肥大のため、花はすべて刈り取り、圃場の外に出します。 <日野>

【畜産】

- 疾病の発生予防に日頃から畜舎の衛生管理を徹底することが重要です。鶏舎消毒の一例を参考に、効果の上がる消毒を行いましょう。(鶏舎の消毒プログラムの例) ① 清掃後の水洗: 糞尿などの有機物が残留しているとほとんどの消毒薬で効果が減退してしまいます。ブラシを使って徹底的に固形物も取り除いて洗って下さい。 ② 乾燥(隅々まで完全に乾かせます) ③ 1回目消毒: 逆性石けんを使います。3月はまだ気温、水温とも低く、適用濃度の濃い方の希釈濃度で使用して下さい。逆性石けん=アストップ、クリアキル、パンパックス、サニスカット等。 ④ 乾燥(最低1週間) ⑤ 2回目消毒: アルデヒド系剤とオルソ剤(床面のコクシジウム対策)を混用で使うか、またはフェノール系剤((市販はほとんどオルソ剤との複合製剤)を単剤で使います。・アルデヒド系=ヘルミン、グルタプラス、エクスカット等・オルソ剤=明治ゾール、タナベゾール等・フェノール系=シーピーピー、ゼクトン、オーチストン、トライキル等 ⑥ 乾燥(最低1週間) ⑦ 3回目仕上げ消毒: アルデヒド系剤での煙霧(燻蒸)消毒を行います。

<二神>